

2.4 学習の成果に係る評価

松本短期大学

1) アセスメント・ポリシー（学習成果の評価に関する方針）

アセスメント・ポリシー（学習成果の評価に関する方針）とは、学生の学習成果をどのように評価するのか等を定めた学内の方針のことです。本学では、三つの方針（アドミッション・ポリシー：AP、カリキュラム・ポリシー：CP、ディプロマ・ポリシー：DP）との関連を踏まえた上で、時期別（入学前・入学直後、在学中、卒業時・卒業後）に学習成果の到達状況を「機関レベル（短期大学全体）」、「教育課程レベル（各学科）」、「科目レベル（各授業）」で評価しています。本学では、学習成果を獲得するプロセスを重視し、ディプロマ・ポリシーの到達につながるよう、段階的に学習成果を評価しています。具体的には、以下の表に示しています。

レベル		評価の時期		
		入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル (短期大学全体)		<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前課題 	<ul style="list-style-type: none"> 休学率 学習成果と学生支援に関する満足度調査 GPA 「学びの軌跡」（学習成果の獲得状況とその振り返り） 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業認定・学位授与率 就職率 進学率 卒業生へのアンケート 就職先へのアンケート GPA
教育課程 レベル (各学科)	幼児保育学科	<ul style="list-style-type: none"> SPI ピアノ実技 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験（就職対策） 履修カルテ 実習評価 卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士取得率 幼稚園教諭二種免許取得率 その他の資格・免許取得状況
	介護福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> 生物テスト 漢字テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験（国試対策） 各種評価表 実習評価 介護福祉研究 	<ul style="list-style-type: none"> 覚悟福祉士取得率 その他の資格・免許取得状況
科目レベル (各授業)		<ul style="list-style-type: none"> 入学前課題 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価 単位取得率 授業評価アンケート 	

ディプロマ・ポリシー（DP）の到達度

学習成果の評価

2) 単位の認定

授業科目の履修修了の認定は、定期試験・実技試験・レポート評価・提出物など、授業科目ごとにシラバスに示された方法によって行われます。

単位の評価は秀・優・良・可・不可とし、秀・優・良・可をもって単位認定されたものとします。

評価	認定				不認定	
	秀	優	良	可	不可	不可
点数	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	60点未満	未受験等

3) GPA制度について

(1)GPA (Grade Point Average) について

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、学生に対するきめ細やかな指導と厳正な成績評価を期すために、各評価にGP (Grade Point) を与えGPAの算出を行っています。GPAとは1単位あたりの評価平均値であり、学修全体の達成度を測る値となります

(2)評価基準について

区分	評価	成績評価基準 (点数)	GP	評価内容
認定	秀	100 ~ 90	4.0	特に優秀な成績
	優	89 ~ 80	3.0	優れた成績
	良	79 ~ 70	2.0	良好な成績
	可	69 ~ 60	1.0	合格と認められる最低限の成績
不認定	不可	60点未満	0	不合格
		未受験等	0	未受験等により評価できない

(3)GPA算出方法

GPA =

$$\frac{(4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数})}{\text{総履修登録単位数} \text{ <不可の単位数を含む>}}$$

(4)GPAの活用について

GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と個別学習指導・教育支援などに活用しています。GPAは各期（前期・後期）のGPAと通算（1年次・2年次・卒業時）のGPAがあり、各期のGPAが2.0未満の学生に対しては、ゼミナール担当もしくは担当チューターが補講などの個別学習を行っています。

4) 学習成果と「学びの軌跡」システムについて

本学では、学科ごとにディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に応じた学習成果を定めています。その上で学習成果の格闘状況を測定・評価し、フィードバックする仕組みとして、冊子「学びの軌跡」を活用した「学生全員面談」を各学期終了後に実施しています。この「学びの軌跡」システムでは、①各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）や学習成果を意識すること、②学期ごとにGPAと自己評価に基づき自らの学習成果の獲得状況を把握すること、③ゼミ担当教員（幼児保育学科）・チューター担当教員（介護福祉学科）との面談を通して、今後の取り組み課題を明らかにすること等を主な目的としています。

各学科のディプロマ・ポリシーと学習成果の関係

幼児保育学科

	DP	学習成果
1	基本的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を備え、福祉、保育、教育に携わる社会的責任と倫理観について理解している。	1) 社会における保育者、教育者の役割を理解し、福祉、保育、教育の総合的な知識をもとに行動することができる。 2) 他者の置かれた立場を尊重しながら、自らの考えを伝えることができる。
2	ケアスペシャリストとして必要な保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を理解している。	3) 子どもの心身の発達に関する正しい知識のもと、子どもの発達に合わせた適切な関わりや援助を行うことができる。 4) 保育、教育内容とその指導法についての知識を修得し、遊びなどの具体的な活動を計画し、実施することができる。
3	ケアスペシャリストとしての自覚を持ち、他者との信頼関係構築の重要性を理解している。	5) 相手の立場になって考え、円滑な人間関係の形成につながるコミュニケーションを取ることができる。
4	社会福祉の視点に立って、その最善の利益を保証できる思考力と実践力を修得している。	6) 保育、幼児教育、社会福祉に関する基本的な倫理や知識を身につける。 7) 子どもの最善の利益を最優先に考え、保育・教育の計画を立案、実施する技術を身につける。
5	保護者ニーズを的確に捉え、地域・関連機関と連携することの必要性を理解している。	8) 多様な社会において、様々な立場の保護者に寄り添い、尊重し、共に子どもの成長を喜び合うことができる。 9) 保育及び幼児教育の現状を的確に把握し、子ども、保護者に必要な関わりを選択することができる、あるいは、必要な期間へ繋ぐ知識を身につける。 10) 地域の人々との交流を通して地域の文化・歴史を把握し、地域に貢献する意義を理解することができる。

介護福祉学科

	DP	学習成果
1	温かい心と豊かな感性を備え、人への深い関心もち、個人の尊厳を守り、信頼関係を築くことができている。	1) 豊かな感性と表現力を備え、相手にもわかりやすく伝えることができる。 2) 相手の立場になって考え、円滑な人間関係の形成につながるコミュニケーション能力を身につける。
2	介護を必要とする人の自立支援と、地域におけるその人らしい生活を支えることのできる専門的知識と技術を修得している。	3) その人らしい生活や自立支援を多面的に検討するため、幅広い教養に加え、介護福祉に関する専門的知識を身につける。 4) その人らしい生活や自立支援につなげるため、介護福祉に関する専門的技術を身につける。

3	<p>根拠に基づいた介護過程の展開ができ、質の高い利用者本位のサービスを考えることができている。</p>	<p>5) 根拠に基づいたサービスを検討するため、介護過程に関する知識を身につける。 6) 利用者本位のサービスにつなげるため、介護過程を実際に展開することができる。</p>
4	<p>常に問題意識をもち、介護実践の質的な向上や介護をめぐる課題について探求し、より良い介護を追求できている。</p>	<p>7) 自らの問題意識に基づき課題を設定する中で探求心を養うことができる。 8) 課題の解決に向けて、適切な方法で取り組み、その結果を考察する過程を通して、課題解決力の基礎となる研究的態度を身につける。</p>
5	<p>多職種や地域住民との連携・協働の必要性を理解できている。</p>	<p>9) 授業や介護実習を通して多職種連携・協働を理解し、チームワークを発揮できる能力を身につける。 10) 地域の人々との交流を通して地域の文化・歴史を把握し、地域に貢献する意義を理解することができる。</p>